

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

末 吉 利 啓

## ○神奈川県湯河原町

### パークPFIを活用した万葉公園の再整備について

#### 【所 見】

今回の視察で強く感じたのは以下の3点。

- ・「コンセプト」がしっかりしている
- ・「デザイン性」が高い
- ・「結果」を出している

まずコンセプトだが、これまでの経緯を聞くとステークホルダーとなる住民等と「湯河原の温泉場をどうしていきたいか」というテーマについて、時間をかけ深く議論されていた。場当たりの公共空間整備ではなく、このまちの課題とこれからの戦略等を協議会などで深掘りをしていたようだ。そこから生み出された「知の温泉場」という基本コンセプトに基づき、まちなみ景観づくりを推進し、その核として今回の万葉公園の再整備にたどり着いたとのことだ。



次にデザイン性だが、川や植物など公園の豊かな自然を最大限生かし、それに溶け込ませるような建物、設備のデザイン、素材、ランドスケープには強い拘りを感じた。つい写真を撮ったり、ゆっくり読書をしたりしてみたいと感じさせる空間になっている。

最後に結果だが、今回の事業はそもそも温泉場の活性化を目的としていた。観光客の減少により観光産業が衰退し、万葉公園の設備も老朽化しサービスも低下していた。観光面では昼間のアクティビティが無いという課題も抱えていた。これまでのまちなみ整備と併せ、今回の万葉公園の再整備により、あまり町を訪れなかった若年層が増加した。更に温泉施設から出なかった観光客が散策にできるようになり、経済効果も上がったという。また、公園の維持管理費も年間で約780万円削減できたとのこと。ちなみに同再整備の総事業費は約11億円だが、街なみ環境整備事業やParkPFIを活用し、市の一般財源からは1500万

円の拋出で済んでいる。お金を掛けず民間と連携して公共スペースを整備し、まちのブランドを高め、観光・経済関連の課題を解決できた好事例だと感じた。

本市もParkPFIを本町緑地で導入予定だが、同緑地を含めた渡良瀬川の水辺空間をどのようにして、どう人を呼び込んでいくのか。コンセプトや戦略を住民等と作り込む必要があると再認識した。そのうえで、足利市の渡良瀬川だからできる公園の利活用を参入事業者と共に作り上げていくことが、成功への条件ではないかと考える。